

寒冷圏データベースの現状

The current state of Cryosphere Data Archive Partnership(CrDAP)

矢吹 裕伯^{1*}

Hironori Yabuki^{1*}

¹ 海洋研究開発機構

¹Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology

アジアユーラシア寒冷圏は地球気候システムの一重要要素であり、氷河・凍土・積雪など近年変動が大きな要素であり、着目されている。IPCC 第4次報告でも数多くの記述、特に社会的影響に関する懸念が大きいとされている。現在世界的には雪氷データに関してはNCDCやNSIDC等のアメリカのデータセンターが中心となって世界的なデータの整備を進めているが、WMO等のようなデータに関する国際的組織がなく、国際的・組織的なデータアーカイブが非常に弱体であるため、現状把握、変動研究がままならないのが、実態である。

大気・陸・水圏は国境にかかわらず続いており、寒冷圏の変動に関しても、広域の寒冷圏に関する情報を国単位で閉じることなく、広い地域で共有することで、地域全体としての寒冷圏の変動の理解を行うことが、今後のアジアユーラシア寒冷圏のより良い理解のためには重要である。特にアジアユーラシア寒冷圏には複数の国が存在し、広域での雪氷圏変動の把握を行うためには国際的・組織的なデータマネジメントが必要とされている。またIPYやIGOS-Cryosphereなどでも、その必要性が指摘されている。GEOSSのデータアーカイブ機能、向上に役立つ。

本プロジェクトでは寒冷圏における地球環境変動の実態を明らかにするために、これまであまり公開が進んでいないデータのカatalog情報の収集・整備を進め、過去の観測およびそのデータの現状を明らかにするとともに、データのデジタル化を通して広くデータの公開を行うことを目的とする。

キーワード: 寒冷圏, データベース

Keywords: Cryosphere, Database